

選択外国語履修方法について（大学のみ）

選択外国語の履修方法・卒業要件となる単位数は所属学科によって異なりますが（詳細は「1.選択外国語の履修方法」を参照）、卒業には各学科で定められた選択外国語の単位習得が要件となります。事前に各外国語のクラス調整を行いますので、回答フォーム（入学手続要項掲載の『北星で学ぶにあたっての入学前調査』）により回答してください。

皆さんの希望をできるかぎり尊重し、調整のうえ履修する外国語を決定しますので、必ず回答してください。各外国語の内容については「2.各外国語の教育目標と授業の進め方」を参考にしてください。

決定した選択外国語とクラス（英語は、習熟度を判定するプレースメントテストによりクラスを決定）については、オリエンテーション期間中にお知らせします。

【回答上の注意】

- ① 必ず問1から問3まで回答してください。
- ② 英文学科は英語を選択することはできません。
- ③ 経済学科は必修である英語を除く4つの外国語の中から選択してください。
- ④ 社会福祉学部心理学科は英語が1年次必修のため回答不要です。（2年次の外国語履修については入学後に説明します）。
- ⑤ グローバルイノベーション学科は回答不要です。（2年次の履修と卒業要件については、入学後に説明します。）
- ⑥ 提出期限までに回答がない場合は大学が指定した外国語になり、卒業まで変更できません。

1. 選択外国語の履修方法

- (1) **文学部 英文学科、心理・応用コミュニケーション学科**
経済学部 経営情報学科、経済法学科
社会福祉学部 社会福祉学科

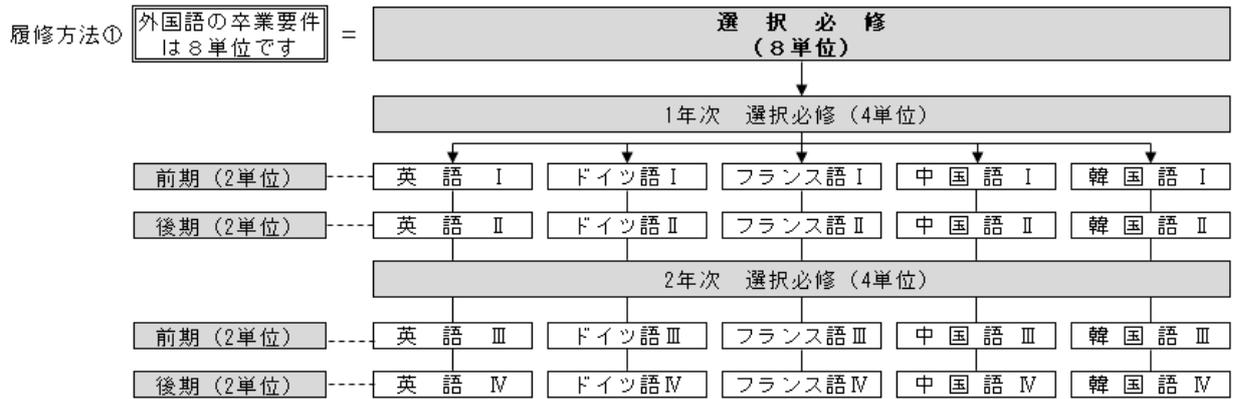
本学の文学部英文学科では、大学共通科目の外国語は、下図の「履修方法①」のように履修します。ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のいずれか一つを、1年次でI及びIIの4単位（選択必修）履修し、2年次では同じ外国語を継続してIIIとIVの4単位（選択必修）履修します。したがって、外国語の卒業要件は合計8単位となります。

※文学部英文学科入学生は、英語は選択できません。

本学の文学部心理・応用コミュニケーション学科、経済学部経営情報学科・経済法学科及び社会福祉学部社会福祉学科では、大学共通科目の外国語は、下図の「履修方法①」のように履修します。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のいずれか一つを、1年次でI及びIIの4単位（選択必修）履修し、2年次では同じ外国語を継続してIIIとIVの4単位（選択必修）履修します。したがって、外国語の卒業要件は合計8単位となります。

なお、選択した言語は変更できませんが、選択した言語を8単位取得した後は他の言語も履修できます。

※将来、文学部英文学科に転学部転学科するには英語を選択外国語として修得している必要があります。

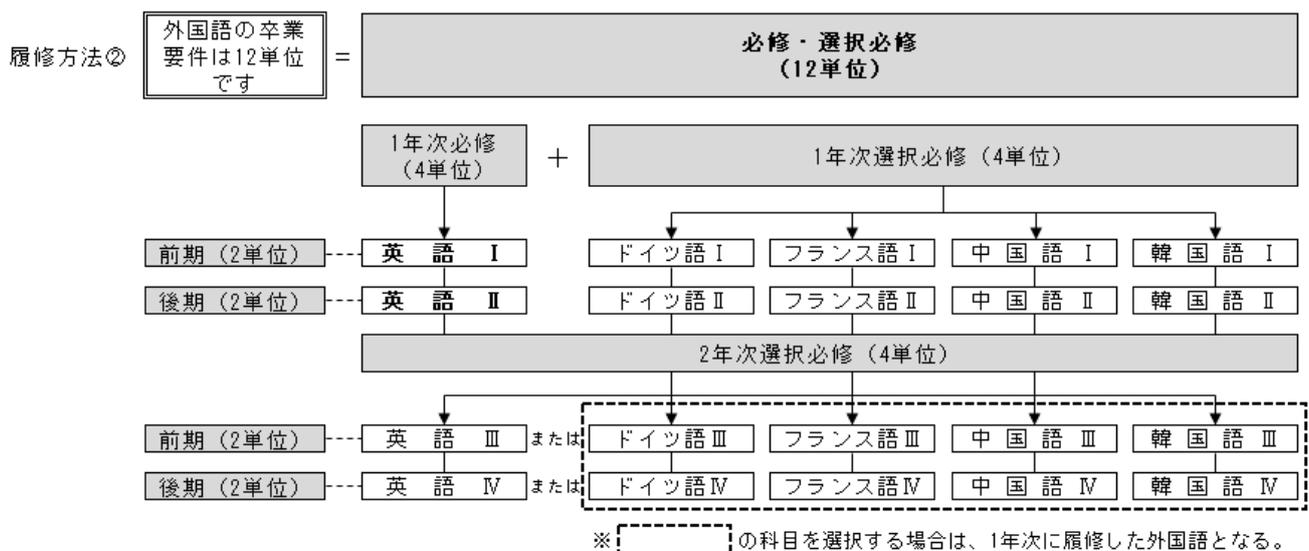


(2) 経済学部 経済学科

本学の経済学部経済学科では、大学共通科目の外国語は「履修方法②」のように履修します。

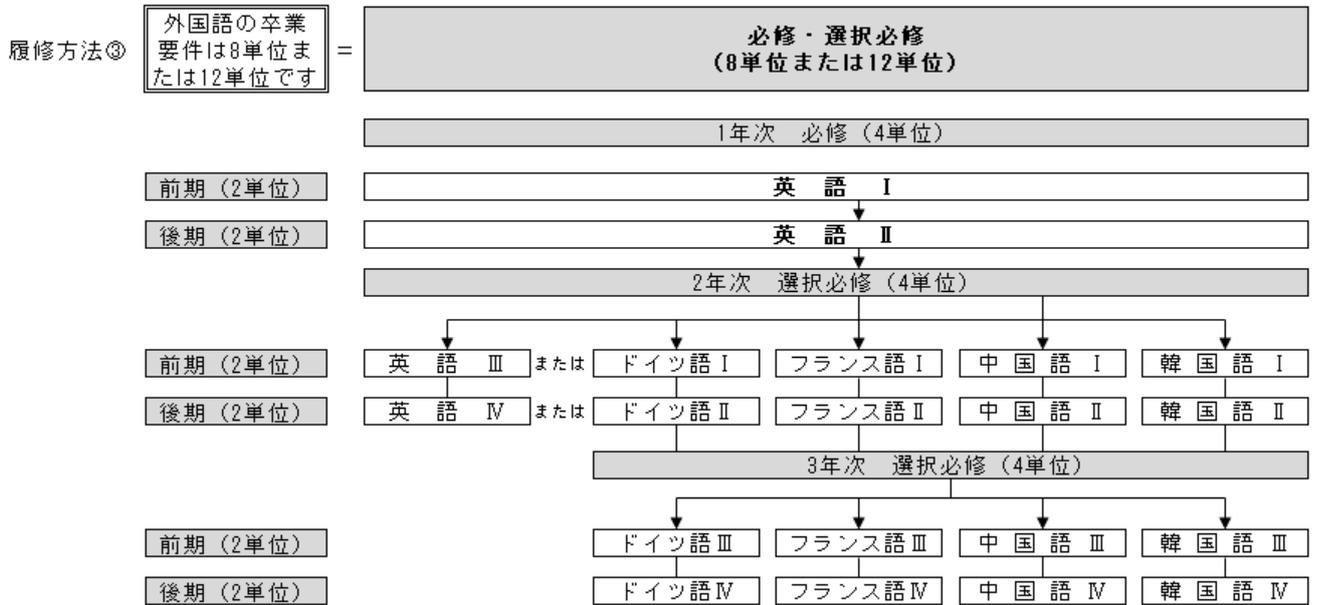
1年次で必修科目である「英語Ⅰ・Ⅱ(4単位)」を履修(全員)するほか、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の中からいずれか一つの外国語Ⅰ・Ⅱ(4単位)」を履修することになります。したがって、1年次では外国語を8単位履修します。

2年次では「英語Ⅲ・Ⅳ(4単位)」または、1年次で履修した「ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語」のⅢ・Ⅳ(4単位)のいずれかを履修することになります。したがって、経済学部経済学科では外国語の卒業要件は合計12単位となります。



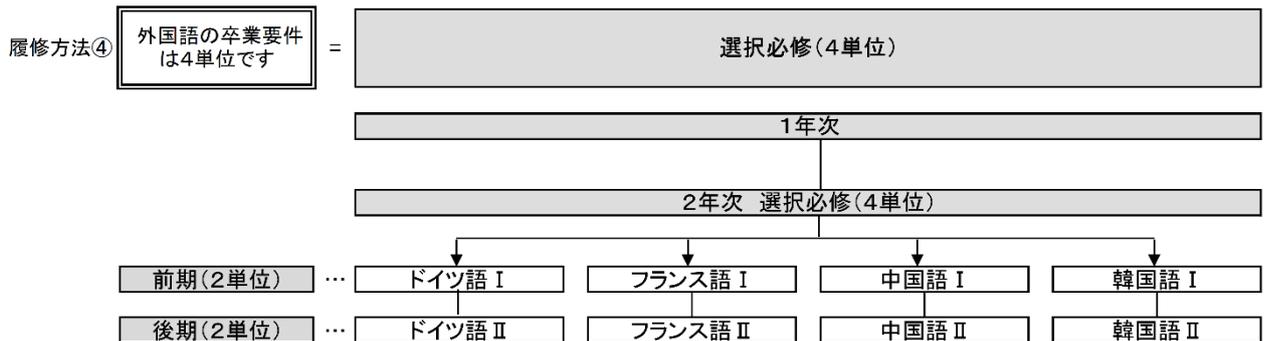
(3) 社会福祉学部 心理学科

本学の社会福祉学部 心理学科では、大学共通科目の外国語は、1年次で必修科目である「英語Ⅰ・Ⅱ(4単位)」を履修(全員)します。2年次の履修と卒業要件については、入学後に説明します。



(3) 国際学部 グローバルイノベーション学科

本学の国際学部 グローバルイノベーション学科は、2年次から大学共通科目の外国語を履修します。なお、英語を選択することはできません。2年次の履修と卒業要件については、入学後に詳しく説明します。



検定試験による外国語科目の単位認定制度があります。この制度は、対象となる検定試験で一定の基準に達した者には、その外国語科目についてレベルに合わせた単位を授与するというものです。オリエンテーション時に配布される「履修ガイド」で詳細を確認してください。ただし、選択外国語を決定する際は検定試験による資格は考慮されません。

2. 各外国語の教育目標と授業の進め方

「英語 I～IV」

英語 I・II では、スピーキングを中心とした一般的な英語を用いたコミュニケーション能力を身に付ける学習だけではなく、多読という手法を用いてリーディングの能力を効果的に強化していきます。一方、英語 III・IV では、英語 I・II で培ったスキルを基盤に、「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」段階への移行を目指します。具体的には、聞き取った内容を理解するためのノートテイキングの学習に加え、ディスカッション、自主的にテーマを設定するプレゼンテーション、ライティングなど、学生主体の発信型活動がより重視されます。授業は週2回実施され、原則として1回はネイティブスピーカーの教員が担当します。また、授業は学生が主体的に取り組む形式で進められるため、授業内外での自主的な学習が求められます。

「ドイツ語 I～IV」

北星学園大学の学生向けに編集された教科書を用いて、初級レベルの文法習得とコミュニケーション能力の養成を目標に授業を行います。「話す・聞く・読む・書く」の四技能をバランスよく習得するために、ドイツ語ネイティブ教員と日本人教員が協力して授業を展開します。グループでの対話やクラス内でのインタビューなど、学生が自分の力でドイツ語を運用することを重視しています。ドイツ語圏の歴史・社会・文化に触れ、未知の世界への好奇心と視野を広げてもらいたいと、教員一同願っております。2年間学習すると、日本の独検（3級）やヨーロッパ共通言語参照枠（CEFR）のA2（初級レベル）試験に合格できる程度のドイツ語能力が身につきます。2年生の後期以降には語学研修でドイツ現地に行く機会も提供しています。

「フランス語Ⅰ～Ⅳ」

授業は、北星学園大学の学生を対象として作成された教科書を用いて、原則日本人教員とフランス語ネイティブ教員がペアとなり、それぞれ週1回ずつ行われます。実際のコミュニケーションに役立つフランス語の運用能力の習得を目指すと同時に、フランス語を通して世界観を広げることも目標となります。教科書は日常生活のさまざまな場面を取り上げ、頻出の基本表現を学びます。さらに、ペアワークやグループワークを通して、対話や自分の意見・経験を述べる力を身につけられるよう工夫されています。積極的に取り組むほど、楽しさが増す構成です。「話す」・「聞く」技能を確かなものにするために、「書く」・「読む」技能も同時に習得できるようワークブックも用意されています。学んだ成果をフランスで実践する語学研修科目も設置されています。

「中国語Ⅰ～Ⅳ」

中国語のコミュニケーション能力の養成が目標です。身近なテーマや場面をもとに、基本的な語彙や重要な文型、また基本的な文法を学びます。授業は、北星学園大学の学生のために開発したテキストを使い、学生同士による対話練習を中心とし、中国語を「話す」ための訓練に重点を置いています。また、聞き取り、読みもの、作文などの練習を通して「聞く、読む、書く」訓練を行い、四技能の習得を目指します。中国の日常文化を知り、日本と中国の違いや日本語と中国語の違いを理解することも、外国語学習の大切な要素となっています。本学は中国の大連外国語大学、台湾の東海大学と交換留学提携を結んでいるので、派遣留学や中国・台湾からの留学生との交流のチャンスもあります。

「韓国語Ⅰ～Ⅳ」

隣国の一つである韓国の言葉を学ぶ目的は、その文化への理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことです。そのために、聞く、話す、読む、書くの四技能の基礎確立を到達目標とします。学習プログラムは学生のペースに合わせて一つ一つ段階を踏んで進めていくようになっています。具体的には、文字と発音を学び、次に会話文や表現を学習します。こうして徐々に、コミュニケーションの道具として使える韓国語へと発展させていきます。本学は韓国カトリック大学や韓南大学と交流協定を結んでいるので、韓国への派遣留学や留学生との交流のチャンスもあります。相手の国の言葉を勉強することで、交流を深めるきっかけとなるよう願っています。